

2. 評価シート(1)

<p>(1)事業貢献度 〈(良)・不良〉</p> <p>(理由) 平成23年9月の台風15号による時間雨量75mmの降雨があったが、流下能力が向上したことにより、沿川に被害は発生せず、安全度の向上に大きく貢献している。 また、河床に植生が繁茂し良好な空間が形成されている。</p> <p>①主要目標 洪水被害の防止</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:30%;">指 標</th> <th style="width:30%;">着手時点数値等</th> <th style="width:40%;">評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標流量に対する現況流下能力の割合</td> <td style="text-align:center">0.38</td> <td style="text-align:center">1.00</td> </tr> <tr> <td>浸水被害又は水防活動の実績(浸水被害)</td> <td style="text-align:center">H3</td> <td style="text-align:center">なし</td> </tr> <tr> <td>想定氾濫区域内における災害発生時の影響</td> <td style="text-align:center">聖徳幼稚園</td> <td style="text-align:center">なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>□評価時点の数値に対する評価 流下能力が向上したことにより、目標と同程度の降雨が発生した場合でも、沿川の被害は発生していない。</p> <p>②副次目標 なし</p> <p>③副次効果 なし</p> <p>④その他の事業効果の発現状況 河川両岸に管理用道路が出来たことにより、生活道路として利用されている。</p>	指 標	着手時点数値等	評価時点数値等	目標流量に対する現況流下能力の割合	0.38	1.00	浸水被害又は水防活動の実績(浸水被害)	H3	なし	想定氾濫区域内における災害発生時の影響	聖徳幼稚園	なし	<p>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 〈(有)・無〉</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">項 目</th> <th style="width:15%;">着手時点</th> <th style="width:15%;">再評価時点</th> <th style="width:15%;">事後評価時点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td style="text-align:right">1,440百万円</td> <td style="text-align:right">1,440百万円</td> <td style="text-align:right">1,705百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td style="text-align:center">H7~H25</td> <td style="text-align:center">H7~H25</td> <td style="text-align:center">H7~H25</td> </tr> <tr> <td rowspan="7" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">経済効率性</td> <td>評価基準年</td> <td style="text-align:center">—</td> <td style="text-align:center">平成21年</td> </tr> <tr> <td>費用</td> <td></td> <td style="text-align:right">1,947百万円</td> </tr> <tr> <td> 建設費</td> <td></td> <td style="text-align:right">1,729百万円</td> </tr> <tr> <td> 維持管理費</td> <td></td> <td style="text-align:right">218百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td></td> <td style="text-align:right">15,804百万円</td> </tr> <tr> <td> 一般資産被害</td> <td></td> <td style="text-align:right">5,674百万円</td> </tr> <tr> <td> 公共土木施設等被害</td> <td></td> <td style="text-align:right">9,625百万円</td> </tr> <tr> <td> その他※</td> <td></td> <td style="text-align:right">505百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C※※</td> <td style="text-align:center">未算定</td> <td style="text-align:right">8.1</td> <td style="text-align:right">2.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>※その他は、農作物被害便益、営業停止損失便益、応急対策費用便益 ※※費用便益比(B/C)は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。</p> <p>(要因変化の分析) 総事業費 地質が想定以上に脆弱であったことによる対策工費の増加 物価上昇による工事費の増加 事業区間見直しによる事業費の減少 費用 総事業費の増加 便益 事業区間見直しによる便益の減少(浸水想定区域の減少)</p> <p>(3)事業実施による環境の変化 〈(有)・無〉</p> <p>①自然環境への影響 護岸には多自然ブロックを用い、河床部のコンクリート張を撤去したことにより、植生が繁茂し良好な空間が形成されている。</p> <p>②生活・居住環境等への影響 なし</p> <p>③環境保全対策の効果の発現状況(措置を講じた場合) なし</p> <p>(4)社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 〈有・(無)〉</p> <p>①社会経済状況の変化 なし</p> <p>②関連計画・関連事業の状況の変化 なし</p> <p>③事業環境等の変化 なし</p>	項 目	着手時点	再評価時点	事後評価時点	総事業費	1,440百万円	1,440百万円	1,705百万円	工期	H7~H25	H7~H25	H7~H25	経済効率性	評価基準年	—	平成21年	費用		1,947百万円	建設費		1,729百万円	維持管理費		218百万円	便益		15,804百万円	一般資産被害		5,674百万円	公共土木施設等被害		9,625百万円	その他※		505百万円	B/C※※	未算定	8.1	2.7
指 標	着手時点数値等	評価時点数値等																																																				
目標流量に対する現況流下能力の割合	0.38	1.00																																																				
浸水被害又は水防活動の実績(浸水被害)	H3	なし																																																				
想定氾濫区域内における災害発生時の影響	聖徳幼稚園	なし																																																				
項 目	着手時点	再評価時点	事後評価時点																																																			
総事業費	1,440百万円	1,440百万円	1,705百万円																																																			
工期	H7~H25	H7~H25	H7~H25																																																			
経済効率性	評価基準年	—	平成21年																																																			
	費用		1,947百万円																																																			
	建設費		1,729百万円																																																			
	維持管理費		218百万円																																																			
	便益		15,804百万円																																																			
	一般資産被害		5,674百万円																																																			
	公共土木施設等被害		9,625百万円																																																			
その他※		505百万円																																																				
B/C※※	未算定	8.1	2.7																																																			

評価シート(2)

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈 有・<input checked="" type="radio"/>無〉</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈 <input checked="" type="radio"/>有・無〉</p>
<p>(理由) 事業完了後、浸水等被害も発生しておらず、危険度も改善され、十分な効果が得られており、目標は達成されていることから、今後の事後評価の必要性はないと思われる。</p> <p>□「有」の場合の実施時期及び方法 時 期 : 年度 方 法 :</p>	<p>(理由) 河川事業の場合、沿川や流域の開発状況等を勘案して浸水被害等を防止するように効果的な一連区間の設定を行うため、事業区間や事業期間が長くなる傾向がある。 また、当区間の様に鉄道を横断する箇所があり、その構造物に影響が考えられる場合には、調査を含めた事業期間の長期化と費用が大きくなることを勘案する必要がある。</p> <p>(具体的反映策) 中長期的な事業計画を持ちつつ、一連で効果が発揮できる適切な工区を設定して、その工区毎に事業評価を受けることにより、予算管理や時間管理を徹底していきたい。</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈 有・<input checked="" type="radio"/>無〉</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈 有・<input checked="" type="radio"/>無〉</p>
<p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果) なし</p>	<p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p> <p>(9) その他特筆すべき事項 〈 有・<input checked="" type="radio"/>無〉 なし</p>

■ 改修前・改修後の現場写真

写真① 川尻橋（富士急行線）付近

改修前



改修後



写真② 管理橋 下流側

改修前



改修後



■ 被災状況写真

写真③
昭和58年8月（台風5号）出水時



写真④
昭和58年8月（台風5号）出水時

